

小林(日大)4位入賞



第2日

第70回国民体育大会「2015紀の国わかやま国体」第2日は27日、和歌山県海南市の県ライフル射撃場などで17競技を実施。県勢は14種目に出場した。ライフル射撃では、成年男子エアライフル立射60発の小林由希(日大)が4位入賞するなど4人が入賞。ソフトテニス成年女子がベスト8入りしたが敗れ、順位決定戦に回った。重量挙げでは成年男子62キ級で深谷崇史(岐阜信用金庫)がトータル7位、スナッチ8位に入賞した。

ライフル射撃はほか、少年男子チームピストル40発で山口恭兵(関有知高)が6位、少年女子同で越田真帆(富山県)が7位、成年男子エアライフル3姿勢120発で橋爪一馬(関有知高教)が7位入賞した。

教訓生かしたい
ライフル射撃成年男子ライフル3姿勢7位・橋爪一馬 立射の時に姿勢を直そうとした時に誤射してしまった。入賞したことで、県に貢献できたことはよかった。今回の

結果を教訓にして次の試合から生かしたい。
初の国体で緊張ライフル射撃少年女子チームピストル7位・越田真帆 初めての国体で緊張してしまい、決勝では自分の射撃がでな

ライフル射撃成年男子
エアライフル立射60発



後悔の残る射撃となった決勝を、4位で終えた成年男子エアライフル立射60発の小林由希(日大)は「もう少し上の順位に行けたはずなのに」と、普段の力量が出し切れずに終わった悔しさを嘆いた。

少年から成年へと種別が変わり、得意のエアライフルに満を持してエントリー。予選では実力を遺憾なく発揮し、堂々の1位通過。しかし、優勝を視界に捉えていた矢先に、想定外の出来事が起こった。

予選を終えてから決勝までの間に、ライフルを整備。その時に誤って照準器を動かしてしまっていた。異変

照準器にぶれ、表彰台逃す

に気付いたのは決勝直前の試射中。しかし、「直す時間にはもう残されていなかった」と、不完全なまま本番に臨んだ。

歯車が狂った中で、小林は懸命に的を狙い続けた。中盤までは9点後半から10点台を保ち、上位を死守。だが、照準器のぶれは致命的で、「最後は集中力が切れてしまった」と、終盤に9・1点を記録。結果的にこの1発が響いて小林の4位が確定し、優勝の行方を座って見ることでしかできなかつた。

本来の射撃ができれば、上位入賞は固かっただけに「あの1発だけは悔しかった」と、落胆も大きい。1位の選手は大学でもしるぎを削るライバル。次の目標は1カ月後の全日本大学生選手権(インカレ)でのリベンジだ。「絶対にインカレではこの雪辱を果たしたい」と、悔しさを執念に変えた。(山本貴史)



成年男子エアライフル立射60発で4位入賞した小林由希

山口(関有知高)6位、初入賞

目標は上位「悔しい」

少年男子チームピストル40発

ライフル射撃少年男子チームピストル40発で6位に終わった山口恭兵(関有知高)は「予選で調子が良かっただけに、この順位は悔しい」と、淡々と胸中を口にした。

予選を1位通過し、上位入賞を見据えていた。しかし、決勝では自分でも分かるくらい緊張で腕がぶれ、照準が定まらなかつた。特に最後の1発は「焦っていてペースが崩れた」と、7・4点のミスショット。「得点を見た瞬間に終わったな、と思った」と、大一番での失敗に天を仰いだ。

この試合で、1発の価値の大切さ、大舞台の雰囲気を感じた山口。負けん気の強さで次への糧



少年男子チームピストル40発で6位入賞した山口恭兵

とするはずだ。「これは最後は来月の新人戦に向うはどんな場面でも9点けて気持ち切り替えて以上を打ち抜きたい」と、た。